

2021 年度実施概要

学校名

沖縄県立沖縄水産高等学校

採択活動名

海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 水産海洋基礎（4 単位）	1 年	水産
2. 総合実習（3 単位）	2 年	水産
3. 課題研究（3 単位）	3 年	水産
4. 総合実習（6 単位）	3 年	水産

取り組みの概要

1 学年水産海洋基礎：沖縄の美ら海と SDGs を学ぶ

水産海洋基礎において、隊列訓練、遠泳、ロープワーク、編網の技術を習得し、水産や海洋に関する諸問題について関心を持ち、実践的な態度を身に付ける。

新型コロナ感染予防の観点から、実施が見送られていた「美ら海水族館」および「海洋文化館」の施設見学を1月に実施し、海洋という世界共通の資源を守るにはどうしたよいかを SDGs の視点で考えることができた。

2 学年総合実習：海洋教育推進に向け地域社会との連携を学ぶ。

総合実習では、救助艇カッターの操艇を中心に基礎基本となるローイングの訓練を行い、応用操艇としてセーリング実習を行った。小高連携教育では、カッターの体験乗船が実施されることを念頭に生徒が主体となって乗船者の安全を最優先に考慮し、生徒一人ひとりが実習成果を発表できる場となり、学びの定着に効果を上げている。産学官連携教育では、内閣府総合事務局主催の若年船員育成事業における海運会社へのインターンシップに参加し、キャリア教育の推進や探究、進路意識の高揚に繋がっている。

3 学年総合実習：糸満の伝統を学ぶ（サバニ、ミーカガン、伝統漁法）

糸満海人工房「ハマスーキ」の施設見学及び講話を通し、糸満の誇るサバニとミーカガンの歴史を学び、伝統を継承する重要性を学んだ。アンケートの結果、80%の生徒がミーカガンの歴史を初めて知ったと回答しており、「水産学校で勉強して改めて見学すると、更に話が理解できて、良い経験が出来た」や「後継者が少ないと言うことで私たち自身も伝統漁業の理解を深め、次の世代に少しでも伝えられたらなと思いました」と前向きな感想があり、今後も継続し糸満の伝統文化を学ばせる必要性を感じた。

3 学年課題研究：「地域活性に向けた新たな海藻養殖への挑戦」【1 年目】

糸満漁協が抱える水産物漁獲量の減少課題に目を向け、産学連携事業としてベンチャー企業協力のもと共同研究を開始している。生徒は海藻に関する基礎知識を学び、沖縄に生息する海藻について調査を行いながら、海ぶどうやもずくに次ぐ新たな海藻養殖を目指して挑戦している。

3 学年課題研究：「美ら海プロジェクト 2020～プラゴミとマイクロプラスチック問題の解決に向けて～」

課題研究および総合実習の中で、海ゴミ問題解決に向けて、実習船海邦丸における調査、サンプルの解

析、外部団体による環境問題講話、近隣の川のゴミ調査、小中学校への啓発活動を実施した。

研究のまとめについては、別紙「美ら海プロジェクト 2021」にあるとおりである。

昨年度の研究結果を踏まえ、1年間の研究を通して、研究を進めていくにつれ問題の大きさ、難しさに気づき、自分たちに何ができるか、世界を変えることができるのかを考え、さまざまな視点から海ゴミ問題解決について探究できた。生徒の感想から「小中学生への啓発活動が大事だと考え、今後も活動を続けてほしい」とあった。次年度も継続して研究を行うことでさらに発展することが期待される。

また、小学校との地域連携事業である「わくわくセカンドスクール」では、本校生徒がリトルティーチャーとして手旗信号、隊列訓練、カッター漕艇の技術を教え、互いに学びあう良い機会となった。小学生からの感想は「将来、沖水に進学した」などこの取り組みをきっかけに水産・海洋教育に興味を持ち、将来を目指すという前向きな感想も多かった。また、高校生からも「教えることで、今まで以上に復習した」や「子どもたちが嬉しそうにしてくれたのがよかった」など、高校生にとっても学びが深まる良い機会となった。今後も継続していきたい。

《活動中の写真》



写真1：海人工房ハマスーキ見学



写真2：糸満中での海ゴミ講話



写真3：ロープワークを教える様子



写真4：カッター漕艇を教える様子